

2025年度決算について（概括）

2025年度決算については、2026年4月1日の大学、幼稚園の設置者変更を控え、多額の退職金が発生する等の費用の発生がありました。一方大口の寄附や積立金の取崩しにて対応した結果、退職金の支払いが2026年4月であることから、翌年度繰越金は1,236百万円と前年比411百万円の増加となりました。減価償却引当特定資産の繰入50百万円も昨年度に引き続き実施しました。

以下2025年度決算について財務三表に沿って概括します。

1. 貸借対照表について

当該年度末における資産、負債の内容、純資産の額を明らかにするもので、基本金に対する純資産の過不足状態を繰越収支差額として表しています。

(1) 資産の部

① 固定資産

[有形固定資産] は前年対比 253,043 千円減少しました。

建物： 220,994 千円減少

主な要因 当期増加額 15,484 千円、当期減価償却額 236,478 千円

構築物： 11,423 千円減少

主な要因 当期減価償却額 11,423 千円

教育研究用機器備品 : 21,052 千円減少

教育研究用リース機器 : 664 千円減少

管理用機器備品 : 1,155 千円増加

車両 : 1,276 千円減少（減価償却による減少）

図書 : 1,212 千円増加

[特定資産]

減価償却引当特定資産の組入れ50,000千円を行いました。第3号基本金引当特定資産、減価償却引当特定資産、退職給与引当特定資産の取崩しにより575,040千円減少しました。

[その他の固定資産]

貸与奨学金の返済等により長期貸付金が3,187千円減少、ソフトウェアが96千円減少しました。

② 流動資産

法人全体では、411,352千円増加しました。主な要因は引当資産の取崩し分575,040千円が滞留したためです。

以上の結果、資産の部合計額は、前年対比420,013千円減少の8,756,131千円となりました。

(2) 負債の部

① 固定負債は 828,289 千円減少しました。

主な要因 長期借入金 △134,480 千円 退職給与引当金 △692,934 千円
長期リース機器未払金 △875 千円

② 流動負債は 603,270 千円増加しました。

主な要因 未払金 664,398 千円増加
賞与引当金 36,044 千円増加
前受金 101,713 千円減少 (大学、幼稚園の前受金は YIC 学院入金)
預り金 2,525 千円増加 修学旅行預り金 2,015 千円増加

③ 負債の部合計

225,020 千円減少の 1,717,788 千円となりました。

(3) 純資産の部

① 基本金は当年度組入等により 3,363 千円増加の 19,443,928 千円となりました。

[第 1 号基本金] 161,522 千円組入増加

固定資産取得増加や 2025 年度中に支払の借入返済および未払金支払に係る組入から除去に伴う基本金額を差引した額

[第 3 号基本金] 158,160 千円減少

職員研修奨学基金、教育振興基金の取崩しによる

② 繰越収支差額

[翌年度繰越収支差額]

資産合計 8,756,131 千円— (負債合計 1,717,788 千円+基本金合計 19,443,928 千円) = △12,405,585 千円

以上の結果、基本金から翌年度繰越収支差額を減算した純資産の部合計額は、前年対比 194,994 千円減少の 7,038,343 千円となりました。

2. 事業活動収支について

事業活動収支計算書は当該年度に行った教育研究活動に必要な諸経費の支出と収入から基本金組入額を控除した収支の均衡状態を明らかにし、経営状態を表すもので、企業会計では損益計算書に相当するものです。

(1) 教育活動収支

教育活動収入の合計は、2,670,069 千円で、前年比 283,664 千円の減少となりました。昨年度に比して寄附金が 325,780 千円減少したことが主因です。また、大学の学生数減少を主因として、学生生徒等納付金収入が 126,518 千円減少しております。また、就学支援制度の拡充、幼稚園の施設給付型幼稚園への移行に伴い、補助金収入が前年比 162,145 千円増加しました。教育活動支出は、前年対比 35,578 千円増加の 2,836,455

千円となっています。このうち退職引当金繰入を含めた人件費総額は、前年対比 50,221 千円減少の 1,771,815 千円となり、経常収入に占める人件費比率は 66.2%となりました。教育活動収支差額は、前年対比 319,242 千円減少し△166,386 千円となっています。教育研究経費 893,393 千円、管理経費 171,246 千円のうち減価償却の合計額は前年対比 11,731 千円減少の 300,389 千円となりました

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入は受取利息・配当金 5,688 千円で、教育活動外支出は借入金利息 4,627 千円となり教育活動外収支差額は 1,061 千円となっています。

教育活動収支差額を合算した経常的な収支状況である経常収支差額は、前年対比 315,722 千円減少し、△165,325 千円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、資産売却収入 70 千円、施設設備寄付金 1,215 千円、施設設備費補助金 1,302 千円と現物寄付 6,259 千円を合計した 8,776 千円で、動産処分差額 1,118 千円、過年度修正額 883 千円に加え、賞与引当金特別繰入額 36,515 千円により特別収支差額は△29,669 千円となっています。

(4) 基本金組入前当年度収支差額（経常収支＋特別収支）

基本金組入余力がどの程度あるのかを表す基本金組入前当年度収支差額は、194,994 千円の赤字となりました。

(5) 基本金組入額

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れであり、161,523 千円を計上しています。過年度に整備した施設の借入金の返済による組入 123,880 千円や当年度中に行った建物改修工事等の 15,484 千円等を組入れたものです。

(6) 当年度収支差額

基本金組入額を加えた当年度収支差額は、△356,516 千円で、翌年度繰越収支差額は △12,405,585 千円となりました。

3. 資金収支について

資金収支計算書は当該年度に行った教育研究活動およびこれに付随する活動の全ての収入と支出の内容及び、支払資金(現金・預金)の顛末を明らかにするもので、企業会計ではキャッシュフロー計算書に相当するものです。

(1) 収入の部

法人全体では、資金収入合計 3,287,676 千円に前年度繰越支払資金 824,700 千円を加えた収入の部合計は 4,112,376 千円でした。学生生徒等納付金収入は、大学の学生数減少を主要因として前年度決算と比較すると 126,518 千円減少し、1,455,409 千円となりました。補助金収入については、就学支援制度の拡充による大学の補助金の増加、幼稚園の施設給付型幼稚園への移行により前年比 158,761 千円の増加となりました。寄付金

収入については、300,000千円の大口寄附により309,386千円の計上となりました。設置者変更のため、前受金収入は中学分のみ55,970千円となり、前期比101,713千円の減少となりました。以上の結果、収入合計額は前年比186,443千円増加となりました。

(2) 支出の部

資金支出合計は、2,876,070千円となりました。

人件費につきましては、設置者変更に伴うYIG学院への教職員の転籍を主因として退職金が大きく増加したことに加え、私立大学退職金財団への清算金87,125千円の支出が発生し、前年対比627,931千円増加しました。

教育研究経費支出につきましては、597,062千円で、奨学費の増加等により前年対比では28,468千円の増加となっております。

また、管理経費につきましては、166,973千円となり、前年対比△30,582千円となりました。借入金利息支出は、4,627千円となっております。

施設関係支出につきましては、学生・生徒等の安心・安全で快適な教育環境の整備に努めた結果、15,484千円となりました。具体的には、中高校舎トイレの改修工事等を実施しました。

設備関係支出は教育研究用機器備品の更新等整備を行った結果、27,544千円となりました。資産運用支出については、中高体育館の建替えを目的とした減価償却引当特定資産の繰入を継続実施したことから、50,000千円となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は前年対比411,606千円増加し、1,236,305千円となりました。

以 上